

第6回総合計画審議会での議論

(日時) 令和2年11月5日(木) 午後6時30分～午後8時30分

(会場) 袋井市役所3階 301会議室

(内容) 第2次総合計画 後期基本計画(最終案)について

○最終案内容の確認

○計画策定後、どのように実効性を担保してこの計画を
進めていくか



(意見等)

○計画の実効性担保には、計画(P)の後のDCAをいかにしっかり回すかが大切。できていること、できていないことを峻別した上、その内容と時期をしっかり確認し、随時計画の取組内容を見直しされたい。

○これからの総合計画は、市民に開かれた柔軟な計画であるべきではないか。

○様々な人・団体等と計画に取り組んでいくには、まずは職員が計画の理念や目的を語れることが不可欠であり、ぜひ若い職員を含めて全体で共有を。また、実施した後の評価に加え、修正点の議論が大切。柔軟に考え現場で感じた部分を聴取できる場づくり、そして組織横断的な意識改革が重要ではないか。

○共創する市民や企業、各種団体、大学等がその取組を発表する場(袋井学会)の創設や政策提案コンペを実施をしてはどうか。市民の横連携を創出していく、そういう場を創り上げていくことが重要。

○個々が関わる部分や身近な所から計画に触れていくこと、そして、まずはできることを一つひとつやっていくことが大切ではないか。それが総合計画全体の取組につながっていくのではないか。

○まずは志を同じ人と取り組むこと、それが育っていくことが多いのではないか。市全体で取り組んでいくには、各施策の担当者がどこの誰に動いて欲しいのかを具体化し、その人にしっかりとメッセージを届けること、そして色々な所からその人にメッセージが届いていくことが大事。複層的に情報が届くことで、初めて市民や企業等は市とのつながりを実感し、自分ごと化するのではないか。

○住民だけでなく様々な形で袋井とつながりや関わりを持つ人を積極的に取り込んで政策を推進してはどうか。外部リソースの上手な活用が計画推進に向けたポイントとなるのではないか。

○外国人にも計画の内容を知ってもらえるよう、計画の多言語版を作成してはどうか。